

令和 6 (2024) 年度 服飾奨学金事業 活動報告書



公益財団法人

VICTORY FOUNDATION

1. 初めに

当財団は、ファッション産業の発展と次世代の人材育成を目的に、令和6（2024）年度より服飾奨学金事業を実施した。経済的な不安を抱えながらも志を持ち学ぶ学生に対し、安心して学習に専念できる環境を提供することは、社会にとって極めて意義深いことである。

本報告書は、奨学金を受給した学生の成果や学びを総括したものである。支援の実態とその影響を広く共有することで、公益財団としての役割を果たすとともに、支援のさらなる発展に繋がたいと考える。

2. 奨学金の使途と学業への具体的な影響

当財団の奨学金は、学費、教材費、生活費、交通費といった学習に不可欠な支出に活用された。特に服飾系の学科では、布地、資材、印刷・撮影費など多くの制作費用が必要となり、その費用を奨学金で賄えたことは、作品の完成度向上に大きく貢献した。

また、スキルアップのための外部講座や、デジタルツールの購入、資格試験の受験料など、学外の活動にも積極的に投資された。奨学金は、金銭的制約によって失われがちな挑戦の機会を確保し、学生に高いレベルでの学びを可能にした。

支援の有無が進級や卒業制作の継続に直結する学生もあり、奨学金は単なる経済援助にとどまらず、教育の持続性を支える基盤となっていた。

3. 進路への取り組みと学業外活動の展開

多くの学生は、ファッションショーや学外展示、インターンシップ、地域活動など、学外での活動に積極的に参加した。現場に触れることで、実務力と創造力の両立を実現し、将来像を具体化させていった。

ブランド立ち上げを視野に入れた学生は、SNS 発信、顧客リサーチ、商品企画などに取り組み、創作の域を超えてビジネス感覚を養っていた。教職を目指す者は、教育実習に加え、地域の学習支援や家庭科授業の補助などに参加し、教育現場で求められる実践的能力の向上に努めていた。

また、語学や IT、デジタル表現技術への挑戦も盛んであり、次代のファッションに必要なとされる多面的な能力を獲得しつつあることが報告からうかがえる。

4. 支援への感謝と今後への展望

学生からは、支援を受けたことへの深い感謝とともに、「支援する側に回りたい」との声が多く寄せられた。奨学金によって精神的な安定が得られたことにより、創作や研究への集中が促され、結果的に高い成果を得ることができたという。

このように、奨学金の存在は単なる金銭支援にとどまらず、自己肯定感や主体性の育成にも繋がっている。感謝の心は学生の内面を変化させ、社会貢献意識の醸成へとつながっている。

支援が学生の意識と将来像に与える影響の大きさを鑑みると、奨学金事業の持つ教育的・社会的価値は極めて高いと言える。

5. 総括

令和6（2024）年度の服飾奨学金事業を通じて、私たちは数多くの学生の成長と変容に触れることができた。彼らの努力と成果は、今後のファッション業界や教育分野において大きな力となることが期待される。

今後も当財団は、学ぶ意欲のある学生が経済的理由によって夢を断念することのない社会の実現に向け、支援を継続していく所存である。関係各位におかれては、引き続きのご理解とご協力を賜りたく、本年度の活動報告とさせていただきます。

以上